

新刊

□ Yamazaki T.: **A Revision of the Genus Rhododendron in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin** 179 pp. Tsumura Laboratory, Tokyo. ¥5,000 + ¥380 (postage).

日本を中心に、樺太、朝鮮、台湾に産するツツジ・シャクナゲをまとめたもので、検索表、写真、分布図、参照標本リストを伴う。すべて英文だが和名だけは片仮名である。ローマ字で和名を発表する意義がわからない私には、これは賛成である。新しいタクソンとしては1亜属、6節、1雑種、1亜種、8変種、3品種が発表されている。こういう本が出版社の関心の対象とならなかったことは、たいへん考えさせられる。 (金井弘夫)

□ 沖縄県: 沖縄県の絶滅のおそれのある野性生物 479 pp. 1996. 沖縄県環境保健部自然保護課。

レッドデータおきなわと副題があるとおり、レッドデータブックの沖縄版である。植物は896種がリストされ、うち絶滅種17、絶滅危惧種102、危急種350、希少種174、地域個体群1、未決定種252種である。絶滅危惧種: ウマノミツバ、危急種: ウバメガシ、ムクノキ、ミズヒキ、ウマノアシガタ、キンミズヒキ、ノブドウ、ツタ、アオキ、ツユクサ、希少種: ヌルデ…をみると、一国の自然保護を一冊のレッドデータブックで代表させられないことをあらためて感じる。それと共に、日本のフローラの多様性について認識を新たにさせられる。 (金井弘夫)

□ 山口県植物誌の会(編): 命あるかぎりー花と樹と人とー 見明長門追悼選集 104 pp. 1996.

山口県在住の植物研究者で1996年1月5日亡くなられた見明長門氏の遺稿を、仲間の人達が刊行したものである。故人が晩年力を注いでいたササ類をはじめ、スミレ類、菌類、本草など、研究の成果がまとめられている。やりかけの仕事というものは、当人以外にはなかなかわからず、陽の目をみずに終わることが多いが、これで故人の努力も報いられたというものである。残部は僅少とのことであ

るが、問い合わせ先は次のとおり。〒735 山口市春日町 県立山口博物館内 山口県植物誌刊行会。 (金井弘夫)

□ 太田久次: 改定三重県帰化植物誌 246 pp. 1997. ムツミ企画、津。¥8,000.

50年来帰化植物を研究している著者が、12年ぶりに前著を改定したもの。後半100頁が542種類のリストで、それぞれの種類について、記録された産地(複数)とその年代、出典が記されている。帰化植物は「珍しい」ものとしての関心に偏りがちだが、環境の変遷や社会情勢の変化の反映として追跡される必要がある。この点でこういうまとめ方に賛成する。前半は地域ごとに帰化の模様とその推移を綴ったもので、同様な視点からの有用な記録となるだろう。今後の帰化植物研究のまとめ方として参考にすべき点が多い。

(金井弘夫)

□ 藤原陸夫: 秋田県植物分布図 1,167 pp. 1997. 秋田県。¥25,000(送料とも)。

秋田県植物目録の著者が、その全資料をデータベース化し、パソコンによる分布図にまとめたもの。レコード数は323,181件、これが個人の作ったデータとは驚きである。その背後には、長年にわたる標本資料集積の努力があったことはいうまでもない。A4版1頁に2種類ずつ、水平垂直分布図が5倍メッシュで描かれ、各表示メッシュ内のレコード量を示す記号が示されている。ヘクソカズラがこのあたりで終わることなどは、分布図にしてみなければ気づかない。解説や議論は全く含まれておらず、後日この成果を用いて多くの発表があることが期待される。またデータベースそのものの活用、さし当たりはデータリストに基づく植物誌の改定版を期待する。100部という限定出版なので残部は僅少のようだが、照会先は次のとおり。東北緑化環境保全株式会社 980 仙台市青葉区本町2-5-1(電話022-263-0618)。 (金井弘夫)